

持続的成長に向けて、
「進歩」そして「飛躍」へ



代表取締役 社長執行役員
山岸 孝行

成長への取り組みは着実な成果をもたらし、「前進」の年と位置づけた2008年3月期は売上高、当期純利益共に過去最高となりました

2008年3月期の連結業績

中期事業計画の初年度である2008年3月期は、原油高や原材料の高騰に加えて、米国における金融・資本市場の混乱に端を発した住宅・建設投資の落ち込みなど、経済減速の影響がはじめておりましたが、総体的には世界景気の拡大により、航空機、自動車、PC、HDD、携帯電話などの市場が好調に推移しました。

その結果、当社は、ボールベアリング、ピボットアッセンブリー、ロッドエンド、HDDスピンドルモーター、計測機器などの製品を中心に増収となり、売上高は、3,344億円と、2年連続で過去最高を更新しました。

また、営業利益は、主要生産拠点があるタイ・中国の通貨高の進行というマイナス要因があったものの、情報モーター及びキーボード事業の収益改善が進んだことなどがこれをカバーし、前年比17.1%増益の308億円となりました。営業利益率は、1.3ポイント向上し、9.2%となりました。

当期純利益は、前年比26.8%増益の163億円となり、1998年3月期以来10年ぶりに過去最高を更新しました。

持続的成長を果たすためのイノベーション

業績改善は、これまで行ってまいりました施策により軌道に乗ったと判断しております。今後は、持続的成長を果たすため、成長を牽引する事業を加速させることと、後に続く事業を進歩させてゆくことに傾注し、当社が標榜しております「ものづくりで勝てる会社、技術で勝てる会社」を全事業にわたって確固たるものにすることが、最も重要と考えております。このため、従来方式の生産技術や技術開発のあり方などを改めて見直し、なすべき変革を着実に進めて参ります。

また、当社は未来への成長へ向け、ボールベアリング、航空機部品、計測機器に加え、電子デバイスとファンモーター等の情報モーター事業を核に成長軌道に乗せてゆくとともに、技術開発を更に強力に進めることで、成長の加速を図ります。技術開発は、技術の複合化を軸に、社内に加え社外との技術提携・協業の取り組みも始めております。

成長へのシナリオ

今後の成長シナリオの実現のため、各事業で具体的な取り組みを行って参ります。

ボールベアリング事業は月産2億個体制を構築いたしました。特に、ミニチュアベアリング市場は高い成長率を維持しており、この分野での事業規模拡大を図ります。また、ヨーロッパ市場、医療機器市場で要求される高精度な特殊ベアリングの分野への参入に取り組みます。

ピボットアッセンブリーについてはマーケットシェアの確保と原材料の高騰に対応してゆける設計技術・加工技術の確立を中心として取り組みます。

航空機部品事業は売上高において、過去5年間の全社の成長率が25%であるのに対し、これを大きく上回る45%の成長を果たしました。米国で生産する航空機エンジン関連製品を中心としたボール・ローラーベアリング市場は、特に中型サイズが世界的に不足しており、増産体制に入るとともに、カリフォルニア工場の生産能力を増強します。また、ロッドエンドは、従来型の製品をタイ工場での生産へシフトすることで、日本・英国・米国の工場は高付加価値製品に軸足を移してゆきます。ファスナー事業は、生産設備・手法がロッドエンドと近いことから航空機部品としての効率化を狙い、ロッドエンド事業部と統合いたしました。航空機・自動車用ファスナーを生産している藤沢工場の増強を既に実施しており、民間機用ファスナーの世界的供給不足を追い風に事業強化を図ります。

電子デバイス・計測機器関連事業は技術変革の激しい市場の中にあり、常に新しい挑戦をする必要があります。その中心がバックライトであり、携帯電話・デジタルカメラといった小型液晶市場依存から中型・大型へ、車載用・PC・テレビの領域へ、異形状のものへの転換が目標となります。

計測機器は、車載・家庭用ゲーム機用センサーといった新市場をベースに成長しており、今後は医療機器・介護機器等の分野への参入をめざして参ります。

エレクトロニクス分野においては、技術的優位性を維持できる複合化技術への挑戦を進めます。例えば液晶バックライトインバーターとバラスト電源の様に従来別々であったものの複合化により製品の優位性を持つことが考えられます。この中で、既にご紹介しておりますHMSM(多機能機器冷却システム)事業は複合化の極にあるものです。

モーター事業は、事業再構築により利益化を実現しました。今後は、ファンモーターの増産、ステッピングモーターの新製品投入と新市場への参入の為に技術開発、高性能化の為にマグネットの開発力強化、DCブラシモーターとレゾルバを中心とした車載用製品の拡大、次世代事業の中心となるDCブラシレスモーターの開発といった課題をクリアし、成長軌道へ乗せ、加速してゆく取り組みを行います。

課題であるHDDスピンドルモーターは、部品加工と流体軸受製造のレベルでは計画に沿った結果を出しており、今後は組立工程でのコストダウンと品質向上を実現し、早期の利益化を図ります。

更なる構造改革

過去3年にわたり、構造改革を実施して参りました。精密モーター事業部は、レゾルバ、DCブラシレスモーターを中心とした車載機器事業を進めており、軽井沢・大森・飯田のモーター開発3拠点をモーター開発技術本部のある浜松工場へ集約しました。

ロッドエンド事業部とファスナー事業部についてはこれらを統合し、航空機部品事業としてより効率的な運営を図っております。

計測機器事業部の技術部門は、軽井沢工場のメカ系技術

を藤沢工場へ統合しました。センサー市場が多様化してゆく中で、メカ・エレクトロニクス一体の技術開発の強化と事業拡大に向けたベース作りをおこないます。

当社の業績改善は、軌道に乗ったとはいえ、未だ発展途上であることが現実であるとの認識のもと、構造改革はその手をゆるめることなく推進して参ります。

将来へ向けて

2009年3月度は中期事業計画の2年目に当たり、「進歩」の年と位置づけております。原材料や資源の高騰、為替変動など当社を取り巻く環境は大変厳しくなっておりますが、2010年3月期における中期計画の達成と2012年3月期における売上高5,000億円達成という目標を変えなく、持続的成長を果たして行く上でのイノベーションへの取り組みを核に、前進から進歩へと更なる改革を実行して参ります。

未来に向けた力強い持続的な成長を実現することは、容易ではありませんが、全社一丸となって目指して参ります。

株主の皆様には、ミネベアグループに対し引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

2008年7月1日

山岸孝行

代表取締役 社長執行役員
山岸孝行

将来に向けて

| 中期事業計画 | 単位:億円 | | |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| | 2008年 3月期 | 2009年 3月期 | 2010年 3月期 |
| 売上高 | 3,350 | 3,500 | 3,700 |
| 営業利益 | 300 | 340 | 380 |
| 税引き前利益 | 235 | 260 | 300 |

